

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（営業担当）	・富裕層の高額商品に対する消費マインドが上がり調子であり、非常に明るい方向に動いている。この傾向はより高まっていく。
		百貨店（営業担当）	・特別招待を実施した3日間は来客数が増え、売上も確保できた。また、月末に商業施設の再開店があり、街ににぎわいが増した。相乗効果で当店も来店数が増加し、購買意欲も刺激されている。
		百貨店（営業企画担当）	・3、4月は気温に左右され苦戦したが、そのような悪環境のなかでも2、3か月前と同じ水準を維持している。これから気候が回復すれば、客の購買意欲は高まってくる。また、客単価もほぼ前年並みとなり、低価格志向も落ち着いている。一部の高級品にも回復の兆しがみえており、今後はやや良くなる。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格が上昇し、客は外出を控える傾向にあるが、所得の下げ止まり感等不安材料のウエイトが若干落ちている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・5月にはタスポの影響による反動減がなくなり、回復トレンドに入るため、7月の来客数は確実に前年を上回る。
		家電量販店（店員）	・2011年に地上アナログ放送が停波することやエコポイント制度の影響で、薄型テレビが非常に売れているが、物が無い状況が続いている。今後、メーカーの量産体制がとられ、需要に応えられる供給が得られるようになる。またワールドカップ等により、やや良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金制度が9月まで延長されたため、客の来店が増える。
		乗用車販売店（販売担当）	・エコカー補助金制度により、販売量は前年に比べて大幅に増加している。景気浮揚策に刺激され、客の購買意欲が若干喚起されており、今後やや良くなる。
		乗用車販売店（管理担当）	・9月でエコカー補助金制度が終わることで駆け込み需要が発生する。特殊要因ではあるが、客の動きは良くなる。それ以外では良くなる材料に乏しい。経済的に特にローンが通らない、保証がとれない、金融機関の融資ができてない、勤務先が倒産する客が増える等である。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・2、3か月先は夏場の中元の時期になり、ギフト商品の販売が増加する。また夏向けのアイスコーヒーの需要も増える。例年7、8月は売上が伸びる時期であるが、例年通り良くなる。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・子ども手当の支給等明るい材料があるため、客の動きは良くなる。
		高級レストラン（専務）	・5月は大型連休のため少し良くなる。来年の新幹線全線開業まで少しずつ良くなる。また2011年に全国都市緑化フェアが開催されるため、やや良くなる。
		高級レストラン（従業員）	・5月はゴールデンウィークや博多どんたく等大きなイベントがあり、県外客も増え、来客数は増える。
		一般レストラン（経営者）	・長期休暇に入る学生が増えるので、レストラン、ホテルの動きが良くなる。現在予約状況をみても悪くない。ただ平日の動きが悪いため、高速道路料金が1,000円である週末を中心に売上を伸ばすことができるよう策を練らなければならない。
ゴルフ場（支配人）	・高速道路料金無料化の圏内に位置し、遠方からの来客の増加を見込んでいる。		
美容室（店長）	・客のなかで仕事がどんどん入り忙しくなってきたという話を聞いており、今後はやや良くなる。		
変わらない		商店街（代表者）	・天候に左右される商店街であるが、客の財布のひもは非常に固くなっている。節約できる物は徹底的に節約していこうという考え方が強い。婦人服においては我慢できる物は買わないという非常に厳しい状況である。今後良くなっていくことはない。
		商店街（代表者）	・節約する生活が当たり前ようになっており、特別な収入がない限り現状のような状況が続く。
		商店街（代表者）	・売上は微増で前よりは良くなっているが、これ以上良くなるとは考えられない。
		商店街（代表者）	・客は先行きに不安を感じており、消費は低迷し続ける。

商店街（代表者）	・天候不順により野菜を始めとする食品が高騰している一方、雇用の場の減少等により消費者の収入はだんだん減っており、購買意欲が上がらない。黒字転換した上場企業が多いと報道されているが、零細商店は廃業することを真剣に考えている店主が増えており、厳しい状況が続く。
一般小売店〔青果〕（店長）	・これから地物の野菜がなくなり、県外物の取扱いが増え、相場がかなり高くなる。夏場で野菜の需要が減り、客の購買意欲を上げる材料がないため、今後は変わらないか厳しくなる。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・人の移動があるのか、新しく引っ越してきた人が増えており、今後は少し期待できる。
一般小売店〔精肉〕（店員）	・近くのブティックや飲食店において閉店や営業時間の短縮が相次いでいる。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新茶時期でもあり売上には期待したいが、消費者の購入に対する慎重な姿勢が依然見受けられる。
百貨店（売場主任）	・天候不順により衣料品の初夏物の動きが悪い。客の雰囲気は良くなってきたが、購買にはブレーキがかかっており、今後もこの状況が続く。
百貨店（営業担当）	・高額品が動いており客単価が若干上がる兆しもあるが、客の不景気感の根は深く、2～3か月での変化は望めない。
百貨店（売場担当）	・前年のインフルエンザの影響が今年はないため、かなりの動員があり、5月の売上は前年を上回ると期待される。最近、物産展の食品関係の動きがかなり良く、その効果は物産展が終わっても続く状況にある。前年の6、7月は売上が悪く、前年比で1割程度落ちたが、今年は天候にもよるが、好天が続けば売上は伸びる。
百貨店（営業企画担当）	・子育て支援や高校授業料無償化等はあるが、政治の不透明感が更に際立ち、景気の低迷は今後も続く。
百貨店（業務担当）	・客の買い渋りに加え天候の不安定さもあり、売りたい時期に売れない状況が続いている。客の購買意欲を刺激するものがない。客は子ども手当の支給を待っている様子でもない。
百貨店（企画）	・可処分所得の減少が続く状況下で、必需品以外は購入しない生活防衛型消費の傾向が続く。また雇用情勢も厳しいなか、夏のボーナス商戦も盛り上がりには欠けることが予想される。
スーパー（経営者）	・子ども手当や高速道路料金等不透明な要素が多く、客は不信任を持って買い控えを続けている。
スーパー（店長）	・買上単価が持ち直してきているのは事実であるが、これ以上はまだ上がらない。
スーパー（店長）	・ゴールデンウィーク中も消費が高まる気配はない。政府の大型打開策がない限り、当分この流れは変わらない。天候不順もあり衣料品は苦戦する。夏の飲料も難しい。
スーパー（店長）	・住関連や食品等の動きが良くなり、来客数、販売点数が前年並みに戻ってきているが、衣料関連の遊び着や外出着、美術関係商品の購買はまだ弱い。必需品である身の回り商品の動きは出てきているが、全体的にはまだまだ変わらない。
スーパー（店長）	・一部の業種で景気の上向きを実感しているという報道があるが、小売業に関しては消費者の節約志向が今後も続く。
スーパー（総務担当）	・同業他社を含め低価格戦略が続く。客の反応もあまり良くなく、安くて当たり前という状況が定着し、まとめ買いの傾向も期待できない。必要な物しか買わない状況が今後も続く。
スーパー（企画担当）	・当面は国内景気の活発な動きは期待できないため、現状維持が良くても若干の回復にとどまる程度である。
コンビニ（エリア担当）	・夏場に向けて子ども手当や高校授業料無償化等により景気が良くなったとしても、すぐに商品購入等に大きくは影響しない。客は安定した収入の確保にまで達していないため、厳しい状況が続く。
コンビニ（販売促進担当）	・今買わなくても良いという客が多く、買上点数が上がらない。売上も横ばいの今の現状が当面続く。
コンビニ（エリア担当・店長）	・おにぎりセールを年に数回やっているが、前年に比べてこのセールへ飛びつく客が減っている。値下げしても売れない状況にあり、今後も厳しい。
衣料品専門店（店員）	・百貨店のハウスカードの切替えにより、客の来店が減っている現状から、すぐに売上は上がらない。

衣料品専門店（店員）	・ここまで目立った春物衣料の動きがないので、3か月先のセールが期待できる。ただ政治的にプラス要素はなく、客もまとめ買いをしない状況は続いており、企業努力で更なる経費の削減を考えなくてはならないという厳しい状況が続く。
乗用車販売店（総務担当）	・エコカー補助金制度が半年間延長されたことで、上半期は現状の好調さを維持出来る。
住関連専門店（経営者）	・例年夏場は売上が減少するが、毎月のキャンペーンは前年の大幅な落ち込みから少しずつ回復している。ただ、これから先の参議院選挙等を考えると景気回復はやはり厳しい。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格が上昇傾向にあり、一般消費者及び流通関係者への影響が危惧される。客の節約志向による燃料油の使用控えも懸念され、厳しい状況が続く。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・消費者は外食の支出を抑制しているだけでなく、交際費等の支出の節約も多く、今後も厳しい状況が続く。
高級レストラン（経営者）	・5月の予約状況を見ると、株主総会が早々に入っており、土日には法事等の予約が入っている。ホームページの宣伝強化により個人の客が増えている。
高級レストラン（支配人）	・一部の層で多少の動きはあるが、ここ数か月変化はさほどない。
スナック（経営者）	・客は今の状態に慣れてしまっており、簡単に上向く気配はない。
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・32年間営業しているが、これまでにない厳しい状況である。繁華街でお金を使う客が激減しており、次の何かを考えないと閉店すら考えざるを得ない。
都市型ホテル（副支配人）	・7、8月は例年の大会等はあるが、予約状況を見ると6月の動きは以前より悪い。総じて4月とあまり変わらない。
旅行代理店（従業員）	・ゴールデンウィーク明けの動きが弱い。本格的な回復という実感はない。
旅行代理店（業務担当）	・先行の受注がない状況にあり、先行き不透明感がぬぐえない。
タクシー運転手	・客の話によると、季節に反して今年は寒く、物も高く、思うように買物ができないという。いつ会社がつぶれるか分からないという客もいる。
タクシー運転手	・坂本龍馬人気で観光客がいくらかは増えたが、市内の個人消費の盛り上がりはなく、総じて横ばいである。
通信会社（企画担当）	・市場が飽和気味であり、新たな販売策をとらない限り、市場の拡大、深掘りは難しい。今後もこの状況が続く。
通信会社（営業担当）	・ここ1年、客の携帯電話の保有台数がほとんど変わらない。逆にマイナスになるとということもあり、当面厳しい状況が続く。
テーマパーク（職員）	・6月は宿泊もゴルフも集客が少ない時期であり、追い風になる材料もなく横ばいとなる。その後7月下旬～8月の夏休みのトップシーズン前にお得な宿泊プランを告知し、集客しなければならない。
ゴルフ場（従業員）	・5月はゴールデンウィーク等もあり、単月で見ると前年を上回っている。6、7月は予約状況を見ても今月と変わらない状態が続く。特にこれから暑くなるため、ゴルフ業界はますます厳しい価格競争になる。子ども手当等により景気は少し上昇傾向にあり、地元は少しではあるが回復する見通しである。
理容室（経営者）	・新規客がほとんどなく、これから季節的にもまだ暑くなりそうにないため、厳しい状況が続く。今年に入って客の来店頻度が減っている状態が続いており、あまり期待できない。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・主な収入である介護報酬は、平成24年4月まで改定されない。また、4月から診療報酬がネットでプラス改定となったことに伴い、当社のサービス利用者である高齢者の負担が増加し、利用控えにつながる可能性がある。今後も厳しい状況が続く。
設計事務所（所長）	・注文がほとんどない状況である。注文があっても話がまとまるのに最低でも3か月程度かかることから考えると、今の景気は3か月後も変わらず良くない。
住宅販売会社（従業員）	・土地仲介の問い合わせがあまりないことや土地に対する投資意欲もかなり減ってきている。マンションや賃貸住宅の過剰な供給によって事業が少なくなっており、景気は良くない。

	やや悪くなる	商店街（代表者）	・デフレスパイラルが進み、安売りの店ばかりが流行る傾向にある。今後政局の不安定等もあり、景気は悪くなっていく。
		百貨店（営業担当）	・客の様子をみると、歩調としては間違えなく上を向いているが、4月は冷え込みの影響から衣料品の客単価が大きく減少したこともあり、依然厳しい状況は続く。
		スーパー（総務担当）	・失業率が依然改善しておらず、政治が非常に不安定な状況にあり、消費者の消費購買力が鈍化している。今後も厳しい状況が続く。
		家電量販店（店員）	・薄型テレビの需要が若干落ちている。これまで消費がテレビに回ったこともあり、4月中旬から動きが非常に悪い商品が出ている。テレビの動きが若干良くなっても、それに伴い他の部分が悪くなる状況が続いている。夏の暑い時期にエアコンなどの季節品が動かない限り、景気は若干悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・参議院議員選挙が予定されており、特に法人利用の減少が考えられる。
		通信会社（総務担当）	・エコポイント制度の効果もあり、一部の家電に好調な面もみられるが、個人消費や雇用、所得が低調に推移することから、景気は悪くなっていく。
		通信会社（業務担当）	・販売が好調であった3～4月の反動と商品の割高感、品薄感があり、購買数がかかり落ち込む。
		美容室（経営者）	・夏になるとパーマではなくカットのみの客が増える。最近髪が長くなったら結ぶ等の工夫をし、カットする客も減少している。1,000円でカットできる店等競合店が増え、さらに自宅でカットする客も増えている。美容室は厳しい状況にある。
		その他サービスの動向を把握できる者 〔フィットネスクラブ〕（営業）	・客単価が減少し、多くの人の行動範囲が狭まる等厳しい状況にある。また原油価格の高騰や公共事業の圧縮等、今後は更に悪化の方向に向かう。
		悪くなる	商店街（代表者）
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・新しい取引先や提携先、納品先等を見つけない限り、通常のギフトや店頭売り、ネット売りでの販売は母の日以降、夏場にかけて落ちる。
		衣料品専門店（店長）	・客の購買意欲が全く感じられず、景気は更に悪化する。
		衣料品専門店（店長）	・物が売れず、安さばかりを求める客が増えている。景気は悪く、いかにすれば客に来店してもらえるか、考えていかなければならない。
		タクシー運転手	・例年、参議院議員選挙前は人の流れが悪く、3か月後は選挙の真ただ中になるため、景気は良くない。
		タクシー運転手	・10年前にも口蹄疫の影響で県外客が減ったが、そのときと同じ位、口蹄疫の影響で県外客が減り、また選挙で人が動かなくなるので悪くなる。
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・スーパー、居酒屋向けの動きが活発になってきており、5月は期待できる。梅雨明けの7月は天候次第ではあるが、ビールの消費に比例して焼き鳥等居酒屋向けの商品が期待できる。
		食料品製造業（経営者）	・スポット的ではあるが、受注が増える見込みがある。
		家具製造業（従業員）	・今後2～3か月先の商業施設や飲食店の出店予定がかなり増えている。また、低価格競争に歯止めがかかりつつある。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・補正予算に合わせ、駆け込み受注が若干増えており、やや良くなる。
		通信業（経理担当）	・第1四半期は前年度の決算を受け、勢いが高まる。
		金融業	・製造業の受注は、緩やかながら今後も増加していく。ピーク時と比較するとまだまだであるが、夏から秋にかけては現在より10～15%程度売上が伸びる。しかし雇用を増加させる環境にはなく、最少人員でのフル稼働が続く。
		金融業（営業職涉外係）	・政局やギリシャなどのEU問題等不安要素は多いが、取引企業をみると業績が回復傾向にある。子ども手当が支給されることで消費回復が期待できることから、景気は良くなる。
	金融業（営業担当）	・中国の世界における地位の確立を中小企業の経営者が認識している様子であり、中国向けビジネス及び製品輸出等を目論んだ設備投資の話が出始めている。	

	経営コンサルタント	・早期に回復するのは考えにくい、3月くらいに底を打ち、上昇傾向にある。数か月間は売上のボリュームが若干上向きで推移する。デフレ傾向は今後も続く。
	その他サービス業〔物 品リース〕（従業員）	・地方においても一部ではあるが、景気の持ち直し、下げ止まり感がみられる。一部製造業において必要案件の引き合いが増加しており、設備投資への意欲も高まっている。ただ競争激化は更に厳しさを増している。
変わらない	食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数、客単価が共に減少している。しかし、観光客数がやや増加傾向であり、海外観光客も増加していることから、今後は売上の回復、現状維持が期待できる。
	繊維工業（営業担当）	・良くなる要因はなく、今のまま底打ちの状態に推移する。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注状況が上向きな状態になっていない。消費者の購買動向は低調であり、売上に結びつかないのが現状である。価格を少し安くしてでも量をとれるような商品開発を手掛けており、その商品がいくらか動き始めている。市場、消費者の動向から景気はこのままほとんど変わらない。
	鉄鋼業（経営者）	・足元では建設需要に回復の兆しが多少見受けられるが、これは原料価格高に後押しされた製品価格の上昇に起因する需要の前倒しである。公共事業の縮小や民間設備投資の停滞等により、建設需要を示す新設住宅着工戸数、非住宅着工床面積は前年比マイナスが続いており、建材需要の本格的な回復には程遠い状態が続く。
	一般機械器具製造業（経営者）	・現在受注量に大きな動きはないが、今後の引き合いの話が出ている。
	一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関係の受注が少しあるだけで、他の案件が全くない。当分、低水準で推移する。
	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連は全般的に今の状況で推移していく。全国的に先行きは非常に明るい。現状を維持できれば良い状況である。
	輸送業（従業員）	・給料は上がらず、物が売れない状況が続いている。消費者の節約志向が強いため、なかなか景気は回復しない。
	輸送業（総務担当）	・一部食品の荷動きが良くなったが、他の商品の荷動きは良くない。全体の動きは良くなってないので、現状維持である。
	通信業（職員）	・情報通信分野のインフラ整備に関する公共事業は、しばらく継続されるが、建設業、設備業全体としては低調のまま推移する。
	金融業（得意先担当）	・今現在の取引先の状況や融資窓口の客の来店状況等から、しばらく大きな動きはなく、当面は現状のまま推移する。
	不動産業（従業員）	・商業施設の売上低迷傾向が続き、今後も厳しい状況が続く。
	広告代理店（従業員）	・ここ3か月間、新聞広告の折込枚数は前年を下回る事がなくなっており、下げ止まり感がある。ただ低い数字で止まっており、景気が回復している実感はまだない。
	広告代理店（従業員）	・4月の動向をみると、予想以上の伸びであるが、5月の出だしは良くない。
	経営コンサルタント	・全体的に不況であり、これから業務が増える状況ではない。当分このような状態が続く。
	経営コンサルタント	・取引先の様子をみると、不景気を理由に、工夫が足りなくなっており、安く安くの傾向が強まっている。
経営コンサルタント（代表取締役）	・前年並みの受注水準に戻りつつあるという取引先が多いが、先行きを不安視する会社も多い。	
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・口蹄疫の発生により、畜産農家は中期的に厳しくなってくる。口蹄疫が解消すればある程度は回復傾向になるが、今の段階では厳しい。
	金属製品製造業（企画担当）	・鉄鋼を始めとする原材料等の値上げが業績回復の足を引っ張るおそれがある。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先からコストダウンの要請があっており、厳しい状況が続く。
	建設業（社員）	・市の発注予定が出ているが、前年比2割減となっている。第1四半期で30本、第2四半期で34本あまりである。当地区には50数社の建設会社があるため、到底足りうる工事量ではない。県の発注予定がまだ出ていないので未定であるが、期待出来る工事量はなく、今後も厳しい状況が続く。
悪くなる	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・3か月先の受注は前年の2月くらいの落ち込みが予想され、厳しい状況である。
	建設業（従業員）	・個人消費が伸び悩み、企業の設備投資は控えられ、住宅着工率が前年割れになる等景気を取巻く環境が悪くなっている。今後も厳しい状況が続く。

		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・まちづくりや環境整備等の目に見える物への投資が極端に減少していることから、建設業務自体がなくなっている。緊急雇用の業務が発注されているが、予算の半分を新規雇用の経費に充てなければならないため、事業者側には負担が増加する事業となっており、景気浮揚となる要素が低い。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・すでに景気の底は打っている。個人消費や求人に関しては回復の兆しはまだ弱い、企業活動が少しずつ回復しており、今後少しずつ良くなる。
		職業安定所（職員）	・求人倍率は平成21年5月を底にして右肩上がり、上方修正されており、緩やかではあるが回復の兆しがみられる。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が3か月連続で上昇した。新規求職者は3か月連続で減少している。事業主都合の離職者も減少しており、雇用保険受給者が15か月ぶりに減少した。
変わらない		職業安定所（職員）	・雇用失業情勢は依然として厳しい状況にあるが、新規求人数が増加傾向にあることや新興国への輸出の増加など経済面で回復の兆しがみえてきたことから、急激な回復は望めないものの雇用失業情勢においては緩やかながらも回復すると推察される。
		人材派遣会社（社員）	・どの企業担当者も業績回復の兆しを強くは感じておらず、ますます厳しい状況は続く。人員を増やすには、まだまだ時間がかかる。
		人材派遣会社（社員）	・単発的な雇用はあるが、長期的雇用はなく厳しい状況が続く。
		人材派遣会社（管理担当）	・実際に企業の業績が伸び、雇用が拡大されるには少し時間がかかる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・6、7月は中元シーズンに入るので、食品メーカー、物流企業などの求人が活発になると予測されるが、これといって好材料がないので景気が良くなるとまでは言えない。
		新聞社〔求人広告〕	・景気は回復基調にあるが、求人の動きはその後についてくるため悪くなることはないが、良くなるとは言えない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・6月以降子ども手当の支給が見込まれ、景気回復の一助になるとの期待もあるが、現在の閉塞感を消すほどのものではなく、現状と変わらない。
		職業安定所（職員）	・3月の新規求人をみると前年比で増加するなど、一部明るい兆しもあるが、産業別では依然厳しい業種もあり、全体として景気は不透明である。
職業安定所（職員）	・前月、新規求人数が前年比プラスに転じたものの、今月は再びマイナスにもどった。またパート求人は5か月連続で増加しているが、一般求人はマイナスで推移している。企業は本格的な採用意欲をもっていない。		
学校〔大学〕（就職担当者）	・人事担当者は、採用予定数は現在が最低水準であるとの認識が強い。しかし今後、採用数を拡大するという話は聞かれない。夏採用、秋採用、通年採用は期待できない厳しい見通しである。		
やや悪くなる		民間職業紹介機関（支店長）	・一部の業種が回復し、需要増の傾向はあるが、全体を押し上げるほどではない。繁忙増員などは皆無であり、2010年度は3月末終了者を不補充のままとする客が多い。労働者派遣法改正により、採用マインドは冷え切ったままである。
悪くなる		民間職業紹介機関（社員）	・客が労働者派遣法改正をにらみ、どのように要員手配するか検討しているところが多く、適法な派遣活用の浸透にはかなり時間がかかる。